



6 地域の個性を育む

御幸地区のまちづくり

1 地域の特性と課題

1 環境共生のまちづくり

(1)自然環境との共生

御幸地区には、多摩川・二ヶ領用水・御幸公園などの水・緑資源が残されています。しかし、現状ではそれらが区民の生活の身近な資源として活用されているとは言えません。区民の生活と御幸地区に残された自然環境が十分に織り交ざった、調和のとれたまちづくりが必要です。

【多摩川】

- ・多摩川の土手を走る多摩沿線道路により、市街地と分断されているため、気軽に行くことのできない、「近くて遠い場所」になっている
- ・せっかくの河川敷が市民に開放されていないので、水辺に親しみ、みんなが憩える施設や空間が整っていない

【二ヶ領用水】

- ・区内に現存する二ヶ領用水はわずか1km程度で、多くが暗渠化されている。
- ・四季に応じてすばらしい景観を見せるが、管理されていない部分については、荒廃している。

【御幸公園】

- ・小向梅林は歴史的な価値を持っており、観梅などで区民にも親しまれているが、公園に憩いのスペースがない

(2)地域社会との共生

御幸地区では、近年急激に高層マンションが建ち並び、まちの様相が大きく様変わりしています。

しかし、地区としての一体的な整備がされないために、まちのバランスが取れず、住環境の破壊、それに伴う紛争などが起きています。

また、都市基盤の整備が未熟で、激しい交通渋滞が起っており、地域環境、日常生活を阻害する要因となっています。

【鹿島田駅周辺】

- ・再開発等により多数の住民が入居し、まちの様子が大きく変わってきているが、既存の住宅街や商店街との一体感がない。
- ・駅周辺の利便性向上に伴い急激に増えた放置自転車の問題が、交通環境をさらに悪化させている。

【工場跡地】

- ・工場跡地の緩やかな用途地域上に、大規模なマンションが建ち始めているため、周辺住環境への影響が心配される。
- ・歩道上空地や提供公園など、地域の環境へ配慮したマンションもあるが、個別の開発の中では必ずしもそうならないケースがある。

【住宅街】

- ・比較的緩やかな規制なため、マンションや敷地分割された狭小建物が増えている。
- ・生活道路がきちんと整備されていない地区がある。
- ・子どもたちが気軽に遊べる公園や安全な歩道などが少なく、逆に整備されていない緑道が危険な道として敬遠されている。

(3)人と人との共生

人々のライフスタイルも多様な広がりを見せ、個性が重視される時代になりつつありますが、これからの少子高齢化社会に対応するコミュニティづくり、地域の元気づくりは重要です。

御幸地区においても、徐々にそうした人の繋がりが薄れてきています。

【御幸地区の商店街】

- ・多様なライフスタイルに対応できる大規模店舗の利用者が増えたため、縁日や夜店の賑わいがある地元商店街の活気がなくなっている。
- ・商店街に入るナショナルチェーン店と地域商店との共生のあり方が見えていない。

【コミュニティ】

- ・新しく建設されたマンションで生活する新住民と、地域住民とをつなげる接点が無く、相互に別のコミュニティが形成されるため、地域の一体感が薄れてきている。

2 安全な生き活きまちづくり

(1)安全安心なまち

御幸地区では、比較的大きな幹線道路についても、歩行者空間が適切に確保されていない道路があります。また、渋滞のために生活道路が抜け道として利用されるなど、道路ネットワークの未整備による危険な交通が発生しています。

その他にも、歩道上にある電柱、自転車などの障害物が安全な通行を阻害する要因となっています。

住宅地では、古市場のように整然とした良好な住環境を保つ地区もありますが、昔ながらの市街地では、密集して住宅が建ち、十分なオープンスペースをとることのできない地区もあります。

(2)多様な賑わいのあるまち

鹿島田駅周辺は、交通の結節点として重要な役割を担い、多くの人々が利用しています。

【今後、賑わいを高めるための課題】

開発が進んでいるが、地区に残されているお寺や神社、昔からの街並みがまちづくりに活かされていない。

JR南武線により地域が分断されているため、駅前の交通渋滞が激しく、人にも車にも危険な道路となっている。

地区内の歩行者アクセスが確保されていない

商店街の衰退が進んでいる。

また、横浜市側にある矢向駅についても、周辺住民の生活の基盤として利用されていますが、川崎市側はアクセスが悪く、賑わいもあまりありません。

(3)活力のあるまち

幸区の特徴である産業を発信する資源として、御幸地区には東芝小向工場があり、その中にある東芝科学館は産業文化を発信する貴重な資源といえます。

こうした歴史的な産業を後世に伝え残す手法が課題となっています。

2 魅力あるまちづくりのために

1 まちの拠点を育む

鹿島田駅周辺を地域の生活拠点として位置づけ、生活のにおいがするまちとして育みます。

駅周辺の整備については、地域としての一体的な面整備を行うことで、今ある資産(歴史的資産・文化的資産・自然的資産)を活かしつつ、生活に必要な機能と昔ながらの賑わいを両立したまちを目指します。

塚越や戸手本町地区の住民にとって、JR南武線矢向駅周辺は生活圏として利用されているため、横浜市と連携しながら、利用しやすい駅前空間の検討を目指します。

2 豊かな生活を育む

(1)地域の实情に合わせたきめ細かいルールづくりを目指します

無秩序な開発で街並みを破壊することのないよう、適正な土地利用の誘導・景観形成を目指します。

今ある良好な住環境を保つ地域のルールづくりを目指します。

密集住宅市街地を住民意見を尊重しながら適切に整備していきます。

(2)地域住民が参加するまちづくりの仕組みを検討します

商店街の活性化、街なみづくりや自転車問題などを地域住民が一体となって検討し、その思いを実現するための組織づくりを目指す。その際、行政も適切なサポートができる体制づくりを進めます。

3 水と緑を育む

多摩川と市街地とのアクセス改善を図り、市民に身近な憩いの空間として活用を図ります。

活用の方法として、市民・子どもが自然と親しめる空間として、公的施設や緑の創出を進めていくことが考えられます。

御幸公園の再整備計画の中で、市民の合意による、公園の資源を最大限に活用した魅力ある憩いの空間づくりを目指します。

その際、必要に応じて国土交通省のスーパー堤防整備事業を視野に入れつつ、多摩川とのアクセス改善を図るような検討が望まれます。

二ヶ領用水再生を積極的に検討し、まちなかの貴重な水辺空間として、住民が憩える親水整備を目指します。検討に際しては、地域住民も参加し維持・管理体制を見据えた議論が必要です。

住宅地の公園、緑道、街路樹などを整備し、緑のネットワーク軸の形成を目指します。

4 みち・交通を育む

(1)道路の用途に合わせた段階的な整備を進めます

縦貫軸を構成する道路と横断軸を構成する道路を明確にし、重点的に整備を行います。

地区内幹線道路は地区内を自動車で移動する時に利用する道路として、生活者の安全に配慮した道路の整備を行います。

それ以外の道路は、生活道路として、全面的に歩行者優先の整備を行います。

(2)歩行者や自転車が快適に通行出来るよう、歩道の拡幅や障害物の撤去、段差の解消など、バリアフリーの整備を進めます

(3)地区の特性・状況に応じて道路の利用形態を検討します

道路毎に道路利用者の優先順位を決める。

時間帯で道路使用者の優先順位を変える。

(4)鹿島田駅を軸とした公共交通体系の整備を目指します

JR川崎駅への一極集中ではなく、鹿島田駅を起終点としたバス路線網を設定します。

公共施設を経由する等、日常生活に配慮したバス路線網を設置します。

バス停の間隔やバス停の位置について日常生活を踏まえた設置を行います。

南武線の立体交差化を優先的に取り組み、踏み切り問題の解消を目指します。

5 安心を育む

(1)災害時に救援・救護活動のできる防災拠点を確認します

多摩川河川敷はその安全性と、多摩川までの避難経路の確保を図ります。

災害時に救援活動できる道路網を整備するために、耐震性や耐火性を高めた整備を目指します。

(2)地区内にまとまった空間を増やし、安全なネットワークをハード・ソフトの両面から整備を目指します

御幸地区に多くある大規模団地や工場の敷地を活用し、災害時に緊急的に避難できるよう、安全性の確認・周辺地区との連携方策を検討していきます。

(3)住民が適切に避難できるような避難場所づくり・組織づくりを目指します

高齢者や障害者など、災害弱者が安全に避難できるように、公園等の身近な空間の活用方策を検討します。

災害時に備えた防災訓練、防災マニュアルの作成等を地域単位でおこない、災害時には適正に対応できる住民組織づくりを強化します。